

倉田奨励金「人文・社会科学研究部門」の研究助成をスタート

倉田奨励金は、日立製作所第二代社長、故倉田主税が日本の科学技術の発展を願って設立を提唱し、資金を出捐したことにより1967年に創設された研究助成金です。これまで50回にわたって自然科学分野の研究者、約1400名へ助成金を贈呈してまいりました。



■倉田奨励金の助成部門

自然科学・工学研究部門	人文・社会科学研究部門(新設)
国際的な視野で社会課題の解決に資する、若手研究者による独創的、先駆的な研究。募集は以下の3分野。 I. エネルギー・環境 II. 都市・交通 III. 健康・医療	科学技術の進歩やグローバル化がもたらす社会の変容、その背景に潜む諸問題を人文・社会科学の視点(社会、文化、文学、歴史、哲学、倫理、法学、経済学等)から読み解き、科学技術の発展の意味や価値と社会のあり方を探求する研究。

2020年3月3日に執り行う今年度の贈呈式から過去の受領者による研究報告会を同時開催いたします。ぜひ多くの方にご参加いただきたく、ご興味のある方は財団事務局までお問合せください。日立財団は、今後も倉田奨励金、科学技術セミナーなどの科学・技術振興事業を通じて、真に豊かな未来社会の創造に貢献していきます。

倉田奨励金 第34回の受領者 理化学研究所 辻孝先生の講演会を開催します。

失った歯や髪の毛が蘇る！
夢の再生医療を日本発のイノベーションで実現する。
一般の方々に最先端の研究開発や最新の科学技術トピックスに触れる機会を提供する、日立財団科学技術セミナー。今回は、理化学研究所の辻孝先生を講師にむかえ「歯や毛髪の再生医療」をテーマにお話しいただきます。



辻孝氏

タイトル：第15回 日立財団科学技術セミナー
みんなの再生医療の実現に向けて
～歯や毛髪再生のイノベーション～

講師：辻孝氏
理化学研究所生命機能科学研究センター
器官誘導研究チーム チームリーダー
日時：2019年10月26日(土) 13時20分～15時
会場：日本工業倶楽部2階大会堂
(参加無料、定員130名、受付順)



●詳しくは日立財団ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.hitachi-zaidan.org/topics/topics062.html>

編集後記

令和元年度の事業が始まっています。従来から支援してきました自然科学・工学研究部門に加えて、今年度から人文・社会科学研究部門を設けた倉田奨励金は募集を開始、日立みらいイノベータープログラムは、すでに出張授業が始まっております。理工系女子応援プロジェクトは、今年度バイオアトック、ワークショップを行い、財団のウェブにて内容を発信しました。日南市少年少女スポーツ育成大会も7～8月に無事行うことができました。名称を変更した日立財団科学技術セミナーは、世間が注目する再生医療から講師を向かえ10月に行うこと決定、今年度から新たに始めた事業「多文化共生社会の構築」シンポジウム実施にむけ、シンポジストとの打合せを重ね11月の実施にむけ準備をすすめております。ニュースレターで事業実施報告しておりますが、是非財団のウェブサイトにもお目通しいただき財団の事業・活動に積極的にご参加頂ければと思います。

公益財団法人 日立財団

〒100-8220 千代田区丸の内一丁目6番1号 丸の内センタービル12階
TEL 03-5221-6675 FAX 03-5221-6680
E-mail: hitachizaidan@hdq.hitachi.co.jp

●日立財団のウェブサイト

<https://www.hitachi-zaidan.org>

発行日：2019年9月20日発行
発行責任者：床波 忠明 / 編集責任者：山口 淳嗣 / 印刷：(株)クリエイターズギルド

NewsLetter

Vol.34/2019.9

日立財団では、年に2回、財団の活動情報を集めたニュースレターを発行しています。シンポジウム、セミナー、表彰式などの活動報告や、最新のトピックスなど、日立財団に関するさまざまなニュースをお届けいたします。ぜひご覧ください！

理事長就任のご挨拶

日立財団の理事長に就任いたしました、石塚でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

近年、企業や組織、個人が、その活動を通じて社会に貢献することの重要性がますます増し、SDGs、Society 5.0などの理解も進み、非財務活動の社会への開示も求められる時代になってきました。

日立財団の活動をより多くの皆様にご理解、ご参加、ご支援いただけるよう、3つの柱(※)の事業について、広報・対話活動を充実し、近況をご報告します。

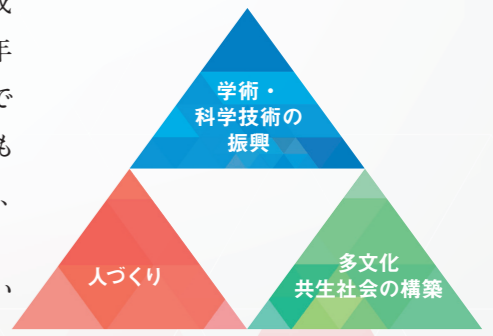
“学術・科学技術の振興”の「倉田奨励金」では、今年度から従来の自然科学分野に加えて人文・社会科学分野の募集を始めました。これはチャレンジングな若手等研究者育成を目的とした自由度の高い研究助成金です。

“人づくり”の「理工系女子応援プロジェクト」「日南市少年少女スポーツ育成大会」は今夏実施、多くの参加者を得ることが出来ました。また、小学校高学年向けにプロジェクト型探求学習を提供する「日立みらいイノベータープログラム」では、私も授業の講師を担当しました。若手、中堅はもとより経営者の皆様にもご参加いただけるプログラムです。来年度の準備は今秋からスタートしますが、より多くの地域・学校で実施できるようご相談してまいります。

皆様におかれましては、これまでと変わらぬご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



公益財団法人 日立財団
理事長 石塚 達郎



※日立財団の3つの柱

多文化共生社会の構築

日立財団は、多様な立場や価値観を認め合い生き生きと一体となって生活するダイバーシティ&インクルージョン社会の実現のため、2019年4月より「多文化共生社会の構築」事業がスタートしました。

今年度は、日本に生活・滞在する外国人と、いかにして多文化共生社会を築き上げるのか、日本人の「心の壁」について追及するシンポジウムを開催します。

テーマ：日本社会における多文化共生社会実現の壁
～心のグローバル化～

開催日：2019年11月4日(月曜日・祝) 14:00～16:30
会場：富士ソフト アキバプラザ5階 アキバホール

基調講演：「夢をつなぐ 心をつなぐ」
サヘル・ローズ氏(女優)



パネルディスカッション

- ・毛受 敏浩氏
公益財団法人 日本国際交流センター 執行理事
- ・アンジェロ・イシ氏
武蔵大学 社会学部 社会学部メディア社会学科 教授
- ・唐沢 穂氏
名古屋大学 情報学研究科 教授

モデレーター

- ・山脇 絵里子氏
一般社団法人 共同通信社 社会部 副部長

●詳しくは日立財団ウェブサイトをご覧ください。



▼ 理工系女子応援プロジェクト

～ 生き物から学ぶ ～ 生き物が持つ不思議な能力を社会に役立つ未来のテクノロジーに繋げる

理工系女子応援プロジェクトサイト「わたしのあした」で、理工系分野で活躍する女性研究者、技術者にお話を伺うコーナー、パイオニアトークのVol.4を公開しました。

ワークショップ

～ 生き物から学ぶ～

コウモリの声“超音波”を分析して

音の物理を学ぼう！開催

パイオニアトーク Vol.4
同志社大学
生命医科学部教授
飛龍 志津子さん

7月27日(土)、京都府の同志社大学京田辺キャンパスで女子中高生を対象としたワークショップ「生き物から学ぶ～コウモリの声“超音波”を分析して音の物理を学ぼう！」を開催し、中学1年生～高校2年生の皆さんに参加いただきました。

講師はパイオニアトークvol.4のゲスト、飛龍志津子先生と大学院生の皆さんです。飛龍先生の研究室は、コウモリを飼育して研究を行っている日本で唯一の研究室で、今回のワークショップでは、先輩からの声を聞くお菓子タイムをはさんで「実際のコウモリを使った飛行実験」「コウモリの能力を真似たロボットのデモ走行」のふたつを体験しました。

実験1：コウモリの飛行実験&超音波を計測してみよう！



研究室で飼育しているコウモリ

飛行実験に使用したキクガシラコウモリ。背中に小型のワイヤレスマイクロホンを着用しています。



飛行実験

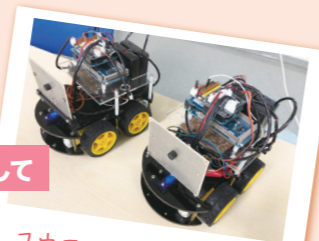
コウモリが視覚を使えないよう、赤外線ライトの中で行われました。壁にぶつかることなく、大きく円を描きながら室内を飛び回ります。



超音波の解析

飛行実験でリアルタイム計測したコウモリの超音波を、研究室で普段実際に使用しているPC、解析ツールを使い分析をします。人間の耳には聞こえない超音波を波形で可視化し、間隔やタイミングを読み取り数値をグラフ化しました。

実験2：コウモリロボットを動かしてみよう！



コウモリの能力を真似たロボット

コウモリの能力を真似たロボットコウモリの口と耳の機能を再現した、1つの送信機と2つの受信機を持つロボット。



超音波で距離と角度を測ろう

コウモリは自分が出した超音波が壁などに跳ね返って帰ってくる時間から距離や角度を知ることが出来ます。その仕組みを理解するために、ロボットが出した超音波をオシロスコープで観察し、障害物までの距離や角度を計算し読み取りました。



走らせてみよう

ロボットが実際に障害物を避けて走行する様子を観察しました。この技術には、自動運転車のセンサーや視覚障がい者の方の目の役割など、社会に役立つ仕組みが詰まっています。



今回のふたつの実験を通して、参加者は生物のことを知るためにも、数学や物理、工学的な興味が必要になること、研究の積み重ねが社会に役立つモノづくりにつながることなどを学びました。終了後のアンケートでは「生物を学ぶにもたくさんの分野の知識が必要だとわかり、もっと勉強しようと思いました。」「初めてコウモリを見てドキドキしたけれど面白かった。理系に行きたくなりました！」などの感想が寄せられました。ウェブサイトのイベントレポートでは、大学院生の皆さんの体験談も紹介していますので、ぜひこちらもご覧ください。

今後も日立財団では理工系女子を応援する色々なイベントを企画・開催していきます。

●詳しくは日立財団ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.hitachi-zaidan.org/my-tomorrow/index.html>

▼ 日立みらいイノベータープログラム 2019年度は4校で実施

日立みらいイノベータープログラムは、「創造性、探究心、主体性、チャレンジ精神、問題発見・課題解決力」の育成をめざす、小学校高学年向けのプロジェクト型探究学習プログラムです。

2019年度は、日立市立河原小学校(茨城県)、立川市立上砂川小学校(東京都)、柏市立松葉第一小学校(千葉県)、戸田市立新首北小学校(埼玉県)の4校10クラス向けにプログラムを実施、計15人の企業講師がプログラムに参加します。6月12日と7月5日に、河原小学校向けに実施した出張授業に引き続き、8月30日は上砂川小学校向けに初回出張授業を実施しました。

上砂川小学校向けの初回出張授業では、(株)日立ソリューションズ・テクノロジーの前社長である河路技術顧問を特別講師に迎え、日立の課題解決例「駅コンシェル(多言語音声翻訳ソリューション)」をもとに、児童たちに「問題発見・課題解決のプロセス」について説明頂きました。



▲メモをとり真剣に話を聞く児童たち

▲課題解決プロセスを説明

続いて、児童たちは「問題発見・課題解決のプロセス」のひとつである「仮説を立てる」について、水に沈む食器/沈まない食器をテーマに実験を行いました。どのような結果になるか、自分なりの根拠をもって予想し、実際に食器を水に入れて結果を確かめました。



▲駅コンシェルに興味津々の児童

▲仮説後、実験する児童

授業後、児童たちからは「普段考えないことを、今日の授業を通して考えるようになった」「問題解決のやり方がわかった」「駅コンシェルを開発した理由が分かった」「みんなで話し合うのが楽しかった」「予想して、確かめていく作業は楽しいと思った」などの感想がありました。

今後、児童たちは「計画を立てる」「情報を収集する」など「問題発見・課題解決のプロセス」一つ一つについてトレーニングを行います。そしてその成果を生かし、自分たちで学校の課題解決案を企画し、企業講師に発表します。最終発表は12月。どのような企画が出てくるか楽しみです。

▼ 「竹内亀次郎記念杯日立市少年少女スポーツ育成大会」を開催

日立財団は7月27日から8月4日の日程で、茨城県日立市の各会場において、「2019年第42回竹内亀次郎記念杯日立市少年少女スポーツ育成大会」を、日立市体育協会、日立市スポーツ少年団本部との共催で開催しました。

本大会は、少年少女の健全な育成を目的に、創業の地である日立市において1978年から開催されている、日立市内のスポーツ少年団に所属する小学生を対象とする大会です。今年度から、隣接する自治体にも広め13チームが新たに参加、軟式野球、バレーボール、ミニバスケットボール、サッカー、バドミントンの5種目に92チーム、1,198名が参加しました。

7月27日に、日立市池の川さくらアリーナにおいて、サッカー、バレーボール、バドミントンの開会式を合同で行いました。日立財団の石塚理事長から、「私もかつて、本大会に参加するわが子の応援をしたことを、昨日のこのように鮮明に記憶しています。

スポーツを楽しんでください。そして、スポーツを通し、地域で子どもたちを育てることは大変重要なことだと思います。お互いの交流をはかり、新しい友達をたくさんつくってください」との開会あいさつがありました。各会場では、家族や友達が大声援を送るなか、選手たちが熱戦を繰り広げました。

日立財団は本大会を通して、「青少年の健全育成」に貢献できるよう、これからも取り組んでいきます。

